

せかいでさいしょのポテトチップス

アン・ルノー／文
フェリシタ・サラ／絵
千葉茂樹／訳
BL出版(2018年)

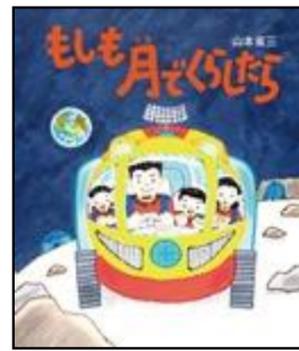
ポテトチップスとは、どのようなきっかけでできたのか？ある日、クラムさんのレストランに変わったお客さんがやってきた。クラムさんは注文どおりに作りますが…。



日曜日の王国

日向理恵子／作
サクマメイ／絵
PHP研究所(2018年)

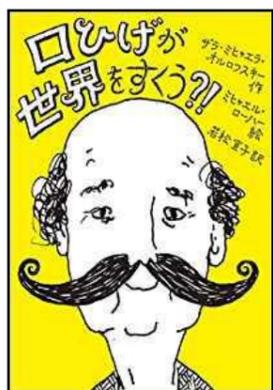
学校に行けなくなった繭。思いきって外に出たある日曜日、ふしぎなスケッチクラブのメンバーになる。絵をかこうちに明らかになるなど。繭は大切な人の本当の気持ちを知る。



もしも月でくらしたら

山本省三／作
村川恭介／監修
WAVE出版(2017年)

今日からぼくは家族と月でくらす。でも月はずいぶん地球とちがうみたい。体がうかんだり、空気がなかったり。この本は主人公、満くんと月のなぞを楽しく学べます。



口ひげが世界をすくう？！

ザラ・ミハエラ・オルロフスキー／作
ミハエル・ローハー／絵
若松宣子／訳
岩波書店(2017年)

おばあちゃんとおわかれしてから、元気がなかったおじいちゃん。ところがある日、「世界ひげ大会」に出ることに！まごのヨーヨーとおじいちゃんは、いっしょにチャンピオンをめざします。



兵隊さんに愛されたヒョウのハチ

祓川学／著
伏木ありさ／絵
ハート出版(2018年)

兵隊さんが、ヒョウの赤ちゃんを「ハチ」と名前をつけて育てます。ハチは人間と仲良くなります。ところが、戦争で、危険な動物は殺されることになり…。本当にあったおはなしです。



ビーおばさんとおでかけ

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ／作
野口絵美／訳
佐竹美保／画
徳間書店(2017年)

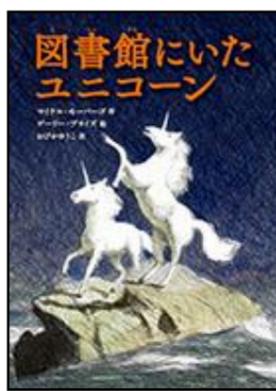
三人きょうだいには、ビーおばさんという少しやっかいなおばさんがいる。おばさんと海へ行ったまではよかったけれど、入ってはいけない島に入ってしまう大変なこと！



漢字はうたう

杉本深由起／詩
吉田尚令／絵
あかね書房(2018年)

詩はむずかしいもの？この本は色いろな漢字から考えついた詩とかわいい絵が楽しめます。たとえば「春」という漢字から何が思いうかぶでしょう。漢字や詩と友だちになろう！



図書館にいたユニコーン

マイケル・モーパゴ／作
ゲアリー・ブライズ／絵
おびかゆうこ／訳
徳間書店(2017年)

本がきらいな少年トマスは、お母さんに無理やり連れて行かれた図書館で、すてきな司書と木でできたユニコーンに出会い、本の楽しさに気づく。しかし戦争が始まり…。



わたしたちのたねまき

キャスリン・オ・ガルブレイス／作
ウェンディ・アンダスン・ハルパリン／絵
梨木香歩／訳
のら書店(2017年)

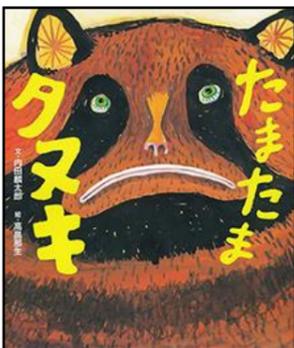
ずっと昔から、色いろなものが色いろなやり方で、たねをまいてきました。たねそのものや、たねをまく様子、育っていく様子が細かくかかれていて、じっくり楽しめます。



おれからもうひとりのぼくへ

相川郁恵／作
佐藤真紀子／画
岩崎書店(2018年)

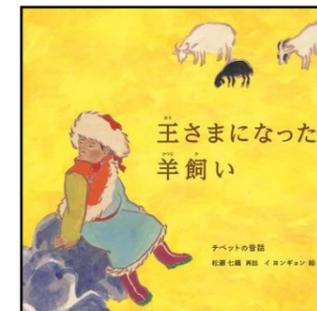
自転車で公園に行こうとして、自分とよく似た男の子とぶつかった智。それからというもの、友だちも家族もなんだか様子がへんで……。ちょっとふしぎなお話です。



たまたまたヌキ

内田麟太郎／文
高島那生／絵
佼成出版社(2016年)

今まで色いろなものに化けてきたタヌキ。本当のすがたは、もっといだいなものなのだ。パイロットよりも社長よりもいだいなもの。それは…？



王さまになった羊飼いの昔話

松瀬七織／再話
イ・ヨンギョン／絵
福音館書店(2018年)

ひよんなことから天の神を助けた羊飼いの男の子。お礼にどうぶつことばがわかるようにしてもらいました。旅に出た男の子は病気の王子をなおすように命じられてしまいます。